

+

ほやほや

福井赤十字病院

理念 人道・博愛の精神のもとに、県民の求める優れた医療を提供します。

基本方針 ◎患者様の人権と意思を尊重し、相互理解に基づく医療を遂行します。

◎医療の質の向上に努め、良質な医療を提供します。

◎地域医療機関との連携を推進し、一貫した医療の提供に努めます。

新年のご挨拶



院長 野口 正人

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

さて、昨年「郵政民営化」の旗の下に総選挙が行われ、小泉内閣が圧勝で終わった1年でした。その勢いで構造改革が推し進められ、医療の分野でも医療費抑制を目的に今年4月以降、患者様の自己負担を増やす、診療報酬を下げるなどの医療制度改革が行われようとしています。この改革は、保険の効かない混合医療を増やし、世界的にも優れた医療制度と評価されている「国民皆保険」制度を脅かす可能性を秘めています。しかし、赤十字病院は医療制度改革に惑わされることなく、人手のかかる医療に手を抜かないよう、良質の医療を保つ努力を続けていきます。そして、生活、体力、健康寿命、納得など、あらゆる視点から「患者様の体に優しい」医療を行っていきたくと考えています。

今年は病院の目標を、『地域の中核病院として県民の求める優れた医療を提供するために、高度の専門医療を拡大、充実する』としました。具体的には、脳卒中などの専門的な救急医療を充実し、がんの治療に必要なPET専用装置を導入する所存です。そして、かかりつけ医の先生と共に地域における医療連携を密に行い、皆様方の健康増進・維持に貢献できれば幸いです。

次に新病院の改築ですが、最終段階に入り昨年12月からの大雪で工事が遅れています。しかし今春には、駐車場の整備が終わります。今年こそ、駐車場不足で患者様に迷惑をかけることなく、新病院3年目の診療を提供できると考えています。長い間、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

最後に、今年も「ほやほや」の初心を大切にして、紙面をとおして院内内の情報を院内外に公開していきますので、昨年同様、温かいご支援をお願い申し上げます。

末尾ながら、皆様方のご多幸をお祈り申し上げます。

顎関節症について

歯科・歯科口腔外科部長
山田和人



■顎関節症ってどんな病気？

近年、新聞、テレビや雑誌などで頻繁に取り上げられ、一般の方々にもなじみある名前になってきたことと思います。あごの関節部やその周囲の筋肉の痛み、関節雑音、開口障害ないしは顎運動異常を主な症状とする慢性疾患の総称です。このため顎関節症と呼ばれているものの中には多くの原因の異なる疾患が含まれています。大きく分けると筋肉に問題があるもの、関節周囲組織に問題があるもの、関節円板に問題があるもの、関節部の骨に問題があるもの、それ以外のものと5種類に分類されています。大部分は筋肉に問題があるもので、次に関節円板に問題があるものが続きます。

■どうやって治療するの？

この顎関節症が歯科において知られるようになって、約20年前後たちました。初期にはさまざまな治療法が試みられましたが、現在では、患者様の主な症状と症状の形態ごとに多少異なりますが、原則的に元の状態に戻り、症状を進ませず、なおかつ患者様の肉体的、精神的、経済的に負担がより少ない方法を選択すべきとされています。このため無自覚性の顎関節症症状を持っている人にあえて治療を行う必要はないと考えられています。

痛みを主な症状として来院された大部分の患者様には理学療法（温熱療法や低周波治療など）、薬物療法（炎症を抑えて痛みを和らげる薬、筋肉をリラックスさせる薬、睡眠のパターンを変え、夜間のくいしばりや歯軋りを少なくする薬、精神を安定させ、過剰な緊張を取りリラックスさせる薬などを使用します。）、スプリント治療（お口の型を取り、上と下の歯が噛み合う面にプラスチックの板を作成し、これを夜間などに装着し、顎関節や顎関節周囲の筋肉に負担をかけないようにする治療法）を、一種類または複数組み合わせ治療して行きます。またセルフケアやホームケアと言って家に帰って自分でできる理学療法（蒸しタオルなどで痛みのある関節部を暖めるなど）や生活改善（くいしばらないように気をつける、硬い食べ物を控える、痛みがひどいのになどと大きな口をあけ、顎関節に過剰な負担をかけないように気をつける、大きなあくびをしないよう気をつけるなど）も、痛みを取るには有効な方法です。このような治療法で大部分の患者様は痛みが完全に消失しなくても、日常生活で不自由しない状態には回復します。最近の研究の結果では顎関節症は必ずしも噛み合わせが原因ではなく、いろいろな要因によって起こったり、繰り返したりするが、顎関節症状は際限なく悪化するものではなく、放置しても自然に楽になる場合もあり、ある程度の開口障害等は残る可能性はあるものの、快方に向かうと考えられるようになってきました。このため日常生活に支障がない顎機能が回復した時点で治療は終了し、以後は再発しないように管理していくことが重要と考えられています。このため患者様は、完治しにくく、再発しやすい疾患であることを十分に認識し、原因である悪習慣などを止めるように努力し、セルフケアやホームケアをきちんと実行していくことが重要です。

開口障害を主な症状として来院された患者様の場合は、痛みによる開口障害か、関節円板の変位あるいは関節部の線維化や癒着に関係するものかを見極めることが重要で、まず前述した痛みを取る治療法を行って痛みをある程度軽快させ、開口障害が残っているかどうかで判断します。開口障害がまだ残っているようであればMRIにて関節円板（顎関節の中心にある軟骨）をよく調べ、検査する、必要であればマニピュレーション（術者が強制的に関節円板を関節頭の上に乗せる手技）やパンピングマニピュレーション（顎関節腔に注射を行い術者が強制的に関節円板を顎関節頭の上に乗せる手技）、顎関節鏡、顎関節鏡下手術を行います。

インフルエンザの季節です

内科医師 中野雅子



寒い日が続く、インフルエンザの流行も本格化。常日頃、次のような点にご注意を。

- ①うがい・手洗いの励行
- ②マスク着用
- ③過労・睡眠不足を避ける
- ④栄養バランスを考えて不規則・食べすぎなどもしない
- ⑤インフルエンザワクチン注射（その年の流行の型を予想して作ります。ハズレの時もあるし、ワクチン接種をしたからといって絶対にかからないというものではありませんが、特に高齢者などでは効果は高いとされます）
- ⑥特に、幼児・学童など、集団生活を送る人が家族にいる場合や、仕事上外回りや多くの人に接触する場合は更に注意が必要です



次のような症状が出たら、受診しましょう。

- ①急な発熱
- ②咽頭痛
- ③咳・痰
- ④全身の関節痛 など

また、周囲に同じような症状の人、またはインフルエンザと診断された人がいる場合には一層注意。

大きな病院で、他の患者様と一緒に長く待たされるのも考えもの…日ごろからかかりつけの先生を持っておくことも立派な「予防」のひとつかも。

インフルエンザは、自分がつらいだけでなく、他人に感染させてしまいます。すっかり熱が下がる（下がってから1日くらい後）までは、仕事や学校はしっかり休み、自宅で安静にしておきましょう。

★インフルエンザのお薬（タミフル）は、これ以上ウイルスが繁殖しないよう抑制するもので、今あるウイルスを退治したりすでに収まりかけた感染を締め出したりはしませんので、発症48時間以内に服用するべきとされます。おかしいなと思ったら、お早めに受診を（ただしあまりにすぐだと検査で出ないこともありえますが…私たち医者は「状況証拠」で判断しております。）

行事予定

●救急法救急員養成講習

日 時：3月1日(水)・2日(木)・3日(金)
9:00~17:00
会 場：日本赤十字社福井県支部
教材費：3,000円

●献血のお知らせ

日 時：平成18年6月頃【日付未定】
13:00~16:30
会 場：福井赤十字病院正面玄関前



X'masコンサートについて



平成17年12月20日（火）仁愛高校合唱部の方たちと病院職員有志によるクリスマスコンサートが本館の中央ホールで行われました。

前半は合唱部の皆さんがすばらしい歌声で会場に集まった患者様の心を和らげ、後半になるとサンタに扮した病院の職員などが加わり、リズムカルにダンスなどの振り付け

を交えクリスマスソングなどを披露しました。最後には「世界にひとつだけの花」を会場全体で合唱し、一体となった楽しいコンサートになりました。



☆キャンドルサービス☆



12月22日（木）の夜、当院の職員および看護学生が手にしたキャンドルに火を灯し、患者様の一日も早い回復を願う「聖しこの夜」「もろび

とこぞりて」、そして以前入院されていた方が作詞作曲して当院へ贈られた「神よ人々を苦より救ひたまへ」などを歌いながら、各病棟を訪問しました。この行事は今年で50回目を迎えた伝統的な行事で、電気を消した中、

キャンドルを持ちながら歌い進む姿は幻想的で、一見の価値があります。



患者様へのお願い

当院を受診される患者様には、検査や治療のためお薬の使用状況を確認させて頂いております。現在使用中のお薬や過去に使用していたお薬があれば、現物もしくは医薬品情報の用紙をお持ち頂けますようお願い致します。

編集後記

今年の冬は例年になく早い降雪とドカ雪で、疲労が溜まり体調不良を起こしている方や、現在、猛威をふるっているインフルエンザに罹患した方も多いのではないのでしょうか？ 今号の特集でもインフルエンザについて書いていますのでご参考にしてください。それでは皆様くれぐれも体調には気をつけてください。（広報委員 H・I）

★ご意見・ご感想は広報委員会事務局（総務課）まで

「ほやほや」第14号
2006.2発行 広報委員会

〒918-8501福井市月見2丁目4番1号
TEL.0776-36-3630(代) FAX.0776-36-4133
URL:<http://www.fukui-med.jrc.or.jp/>
E-mail:webmaster@fukui-med.jrc.or.jp